

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392900041		
法人名	株式会社 翔栄		
事業所名	グループホーム 和鹿島		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿野1301番地2		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイサービスを併設しており、日中は多い時で12人の方が職員と一緒に共同生活を送っています。外へ畑作業に行く方、ラジオ体操や脳トレに集中する方、雑誌や新聞を読まれる方、自室でのんびり休む方、それぞれのペースで自分の出来ることを楽しんで生活されています。私たちは、ご本人様が出来ることをサポートさせて頂くケアを心がけています。利用者様の楽しみである食事はキッチンと管理されメニューも豊富、食事制限で糖尿が改善した方もおられます。また、訪問看護と契約し、定期的な健康管理と協力医の先生との連携で早期対応ができ健康面も安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木の温もりを活かした作りのホームでは、開設時より地域や本人・家族をはじめ関わる全ての出会いに感謝し、こころ寄り添う介護を基本姿勢のとして、居心地のよい環境、笑顔のある生活の提供に全職員が志を持って取り組んでいる。初めて介護の現場を経験する職員や、介護にやりがいを感じ新たな資格取得に励む職員など、この世界への動機や経験は様々であるが、入居者を真ん中にしたケアの姿は生き生きとしている。また、「ここにおると楽しか〜!」「私はここに来て元気になりましたよ!」など、入居者の方から語りかけて下さる光景がホームの日常を表しているようであった。代表者自ら関わる食事提供は、入居者や職員にも大好評で、特に和やかなひと時であり、今後も家庭的な雰囲気の中で入居者に笑顔あふれる時間を支援いただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の介護理念は目のつく所に掲示してある。スタッフの入れ替わりがあり、全員に周知できてないが、その理念を共有して実践につなげるよう心がけている。	『すべての出会いに感謝し、こころ寄り添う介護を』という基本姿勢のもと、地域の中の事業所としての取り組みを含めた4項目の介護理念を設けている。理念はホーム内への掲示により啓発を図り、新職員採用の際は、オリエンテーションの中で説明を行っている。理念を共有して実践につなげることを心がけているが、全職員で周知徹底や振り返りの機会を持つには至っていない。	職員の異動などにより、理念の継続や見直しについて話し合う機会は難しかったようである。まずは介護理念に沿った年や月間の目標を全職員で検討し、日々のケアに繋げながら今後も入居者・家族を支えて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度より代表がこの地域で生活を始めており、地域の一員として日常的に交流している。	ホームは開設当初から地域状況を踏まえながら、地域の一員として出来る交流や認知症の啓発に努めている。また、代表者がホームに隣接し居住しており、近隣者と作業やスポーツなどの交流を通して、触れ合いの機会を持っている。代表者や管理者は今後も入居者が地域へ出かける機会や、介護相談などホームの機能を発揮できるような場を作っていきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は老人会に参加したが本年度はできてない。面会に来られた住民に事業所内での認知症プログラムの説明をし時間があれば参加してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際や取り組みの報告はできているが、サービスの向上に活かせる意見が乏しくグループホームの啓発不足を感じている。	感染症の時期や今回の熊本地震などにより2ヶ月ごとの定期開催は困難であっても年6回の実施に努めている。初回にはメンバーの紹介とともに方針や理念などについても説明を行い、ホーム運営への理解や協力を依頼している。家族や地域代表者(区長・老人会)、行政、地域包括職員などをメンバーとし、5月の会議では、震災後ということもあり防災時のマニュアル作成などについても助言があがっている。外部評価については、内容や目標計画についても説明が行われている。	管理者はサービスの向上に繋がるような会議となるよう努めたいとしている。今後はホーム内の見学(浴室を見てもらったり、トイレの使用や食堂の椅子にかけてもらうなど)入居者の目線での感想を受けるなどもサービスの向上に繋がるものと考えている。この会議が専門性やそれぞれの立場を活かし、貴重な時間となっていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に運営推進会議に出席して頂きサービスの取り組みは積極的に伝えており、いい協力関係が出来ている。	運営推進会議の席では、毎回ホームの現状を積極的に伝えながら関係の構築に努めている。また、書類提出など必要に応じ役所を訪れ、近況を伝え適宜指導を受けている。地域包括センター職員からは、会議の中で所在地の変更や24時間体制への移行状況など必要な情報が報告されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は8時頃から19時頃までは開錠しており、いつでも出入り可能になっている。全ての職員が禁止の対象となる行為は正しく理解しており、スピーチロックが無いように意識して声かけしている。	ホーム玄関は日中開錠しており、見守りや一緒に出かけることで入居者の自由な時間を提供している。スピーチロックを含め、職員同士が気づいた時は声を掛け合い、拘束のないケアの実践に努めている。また、職員のメンタル面への配慮も重要とし、希望休への対応やパート職員の増員によりゆとりのある配置に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないように全員が言葉遣いに注意しており、事業所内で虐待がないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が少なく職員の理解もバラバラである。それらを活用できるように学ぶ機会をもつように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長と管理者で十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見や要望があればカンファレンスや運営推進会議で報告し、それらを運営に反映させている。	入居者の意見や要望は普段の関わりの中で聞き取るようにしている。家族については年1回の家族会や面会時に、対応職員が近況を伝えながら確認している。ホームは利用料を持参としており、家族の訪問の機会にも繋がっている。また、プランの切替えの際も、苦情を含め要望がないか聞き取っている。出された要望については、早急に対応策を検討し、家族へ報告し安心や信頼関係が保てるように努めている。公的な相談窓口については、入居時に書面の中で説明を行っている。	家族会の中で行うアンケートについては、今回の外部評価アンケートと間隔が空いている方が有効かと思われる。アンケート内容を含め検討されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスで職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	カンファレンスの中で職員の意見や提案を確認する他、管理者は共に業務にあたる中で出された意見などを代表者へ伝える。また、代表者自身も『一緒にケア、現場を共にする』をモットーにしており、働きやすい職場、要望を考慮したシフトを作成している。資格取得や研修についても、本人のやる気を大切に可能な限りの支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備は出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングできる体制を作っている。また、資格所得の費用負担も会社でおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加などで交流する機会はあるが、サービスの質を向上させていく取り組みはしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報に目を通し利用者様が持っている不安等に耳を傾けながら積極的にコミュニケーションを取るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら信頼関係が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも手を出さず、本人に出来ることはやってもらおうようにし、暮らしを共にするもの同士のなじみの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に共に本人を支えていく関係になるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人や場の関係継続の支援は努力しているができてない。	家族をはじめ親類、近隣者など入居者にとってこれまで大切な関係にあった方々の訪問が継続できるよう配慮している。また、野菜作り、洗濯物量などの家事作業、地元の公園への花見など馴染みの支援に努めているが、管理者はまだ不十分としている。	入居者のADLの低下により、これまで得意とされていた活動や馴染みの場所を訪れることも困難になってくると思われる。その中で、こだわりへの対応やホーム内で出来る馴染みの支援について今後も検討しながら取り組んでいかれることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファの位置等を工夫し利用者同士が関わり合いを、いい関係が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握は困難なので本人本位に検討し思いが理解できるように努力している。	思いや意向は普段の関わりの中で聞き取るようにしているが、困難な方も多く、表情や推察から本人・本位に検討している。視力が不自由な方の仕草から、入居前の生活環境と照らし合わせ、就寝への希望を察することができており、日頃の関わりや、気持ちを支援に繋げたいとする職員の思いが伝わって来る事例である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活環境、これまでのサービス利用の経過等に関して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは利用者の観察がよくできており、情報の共有もできているので、一人ひとりの現状の把握が出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでモニタリングし意見や気づきを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者は、本人・家族の思い、職員の意見や気づきを活かし、現状に即したプラン作成に努めている。職員のコミュニケーションから意見交換や情報の共有が徹底しており、本人・家族の安心や満足に繋がっている。また、プランの説明にあたっては、わかりやすく進行し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫を個別記録に記入しスタッフ間での情報交換を行い、情報を共有してケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に合わせてその時々に応じた対応をしており。柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の演奏や踊り等の協力は頂いているが、全ての地域資源は把握できてない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を大切にしている。また、適切な医療を受けられるように支援できている。	本人及び家族の希望により、これまでのかかりつけ医や認知症に理解のある協力医による往診を支援している。家族同行による受診の場合は情報提供を行い、スムーズな受診が行えるようにしている。職員は毎日のバイタルチェックや表情など健康管理に努め、適切な医療支援に繋げている。歯科については、協力医による往診をはじめ、食後の口腔ケアにも重点を置き支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での情報や気づきを看護に報告し適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が主に窓口となり病院関係者との情報交換や相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてどこまでできるか家族会等で十分に説明しており、協力医の先生とも方針について話し合いし方針を共有し取り組んでいる。	重度化(終末期)指針により、入居時に本人及び家族に説明し、意志確認の同意書をもっている。また、年1回の家族会でどこまで対応できるかなど方針について説明している。看取りの希望があれば、家族、協力医、訪問看護、職員と話し合いを重ね、納得の上でホームに出来る最終の支援に努めることとしている。研修として、他の事業者と合同で「グリーンケア」について学ぶ機会を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフの入れ替わりがあり、できてない。応急手当の訓練を定期的に消防署や施設内で行なっていき実践力を身につけるよう努力していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	熊本地震の時には地域の消防団協力で避難所に避難することができたが、予測できる災害時は家族に連絡し協力していただくようお願いする。	熊本地震の時は、消防団の誘導により避難所への避難している。その時の状況や今後の安全対策について家族会の中で報告を行っている。火災避難訓練は、年2回、昼と夜間を想定して実施している。日々の安全管理については、日常点検に加えて、月1回居室内を含め掃除を徹底している。	今後は消防署にも参加協力を依頼し、専門的な評価を受けることが必要と思われる。また、運営推進会議の中に訓練を組み入れることも有効かと考える。食料をはじめ災害用物資の備蓄についても取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し失礼のない言葉かけや対応ができています。	日々の暮らしの中で、穏やかで丁寧な言葉かけに努めている。呼称は、苗字または名前にさんづけで呼んでいる。入浴・トイレ介助は、本人の気持ちを大切に考えて、基本的には同性介助としている。個人情報保護や守秘義務については、入社時に説明し、徹底を図っている。	面会簿については、個別記入などプライバシーに配慮した様式に変更されることが必要と思われる。また、トイレ内に置かれた尿器には、カバーを掛けるなど職員の工夫に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず本人の希望を聞くようにしているが、言葉だけでは表せない部分を表情や行動で理解し支援できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、本人のペースや希望にできるだけそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時にはスタッフが一緒に服を選んだり、元美容師のスタッフが髪を切ってあげたりしている。利用者を担当別にし、爪・耳垢・鼻毛等の清潔保持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事をし、配膳、片付け等のお手伝いのできる範囲のことを手伝って頂いている。メニュー紹介をスタッフがし、食事前の挨拶を利用者をお願いしている。	食事は栄養管理の行き届いた献立により、代表者自ら、旬の食材を求め地域のスーパー等から直接購入し、ガスでの調理にこだわるなど、美味しく食べるための努力をしている。また、誕生日やおせちなど行事食は更に工夫がされている。利用者は、畑での野菜づくりや、もやしの根ちぎり、いりこの頭とりなど、出来ることで食に関わっている。入居者も職員も一緒に、「うまか〜！」「美味しか〜！」と、和やかな食事時間であった。	ホームが実施したアンケート中で食事の内容などわからないと回答された家族もおられたようである。日々、心のこもった食事が提供されており、今後はぜひ家族へも一緒に食事を摂ってもらえるような機会を持っていただきたい。取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や補水チェック表にて確保できているかを確認し個別の飲み物やゼリーを提供し水分量や栄養バランスが確保できるよう支援している。脱水症状態の時には点滴施行できるようにかかりつけ医と連携がとれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりの力に応じた口腔ケアを一緒におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し排尿チェック表で確認しトイレ誘導やトイレの声かけをおこなっている。	チェック表を作成し、一人ひとりに応じた個別の排泄支援をしている。尿意のない方にも、トイレ誘導したり、動作、様子から敏感に察知してトイレ誘導している。入居者は日中、布下着やリハビリパンツで過ごしており、夜間だけオムツの方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事が中心でラジオ体操等の運動もおこなっているが便秘の方が多くなっている。かかりつけ医の先生と相談し看護スタッフが排便コントロールを作成、指示のもと排便コントロールをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があった場合は無理強いせずタイミングをみて声かしている。本人の希望に合わせて入浴が楽しめるように支援している。	入浴は、毎日できる様に準備しており、基本的には、1日おきに週3～4回となっている。拒否のある方には、職員が交替で声を掛けたり時間を置くなど状況によって対応している。一人ひとりに合った入浴を楽しんでもらうため、湯温は本人の好みとし、湯舟ではゆっくり寛いでもらうよう工夫している。季節湯の菖蒲湯、柚子湯も2日間連続しており、全入居者が楽しめるようにしている。	浴室は大変きれいに掃除しており、更に、気分よく寛いでもらうために、窓際の棚に置かれてれているものは、入浴中だけでも別のところに保管していただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きて活動されるように支援しているが、眠そうにしていたら横になるように声かけしたり、人によっては昼寝を習慣化し体力保持できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が使用している薬を完璧には理解していないが、服薬の支援はしている。症状の変化はその都度看護スタッフに報告しかかりつけ医の先生に相談、薬の変更や追加等の指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望で草むしりや家庭菜園をしたり、包丁を研いだり、洗濯物をたたんだりドライブに行ったりと役割、楽しみごとの支援ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見や正月の初詣など、戸外に出かける支援はできているが、普段行けないような場所でもいけるような支援は家族や地域の人々の協力を得ることが難しく出来てない。	季節に応じた外出支援を計画し、宇土の公園への花見や宮原などへの三社参りの初詣など地域資源をを活用したり、天気の良い時には、近くを散歩するなど戸外に出る機会を持っている。また、家族の協力を得て、自宅の畑を見に行ったり、美容院への外出もできている。外出支援が難しい環境になってきているが、「今だけだから」との思いから、家族の理解と協力を得て、共に外出支援をしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者はお金を持ってないが、出来る人は買い物と一緒にいたりしてお金が使えるように支援していた。現在は能力の低下でできてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話がいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特にトイレははっきりと分かるように昼間も明かりをつけて混乱されないよう工夫している。また自分の部屋が分かるように利用者の目線位置に名前を掲示している。	トイレの位置が分かるように工夫するなど、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。冬は蓄熱暖房で快適な温かさを保つなど、利用者中心の室温管理に努めている。自然の草花は特に季節感を醸すものであり、ホーム内の環境に取り入れ居心地の良さに繋げている	共用の空間の壁面については、損傷がないか、季節感のあるものなのかなど定期的な見直しが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファで気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、一人でいたい人は同じ空間の中で離れた場所で過ごすことができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の写真を貼ったり、誕生会のプレゼントの色紙を貼ったりし、居心地よく過ごせるように工夫している。	本人の使い慣れた馴染みのものを持ってきてもらうようお願いしている。特に、箸と湯飲みは持参されるよう伝えている。居室は、家族の写真・掛け時計、カレンダーや職員が作った誕生会の写真などが飾られ、掃除も行き届き、居心地の良いものとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力でトイレに行けるように矢印したり場所の表示をしている。歯磨きセットは洗面台に全員分まとめて置き、自分で選んで使うことができるよう支援している。		